

## 2021年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月15日

上場会社名 株式会社レッド・プラネット・ジャパン  
 コード番号 3350 URL <http://www.redplanetjapan.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月15日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 050-5835-0966

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年12月期第3四半期の連結業績(2021年1月1日～2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	371	39.3	1,085		1,383		537	
2020年12月期第3四半期	612	67.0	1,012		1,546		1,461	

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 392百万円 ( %) 2020年12月期第3四半期 1,233百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	9.40	
2020年12月期第3四半期	25.62	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失金額を計上しているため記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年12月期第3四半期	13,406	12	0.0
2020年12月期	14,541	404	2.7

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 4百万円 2020年12月期 397百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		0.00		0.00	0.00
2021年12月期		0.00			
2021年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

2021年12月期の連結業績予想は、現在精査中であり、当該連結業績予想については、今後、取り纏まり次第速やかに開示いたします。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期3Q	57,192,187 株	2020年12月期	57,192,187 株
期末自己株式数	2021年12月期3Q	16,155 株	2020年12月期	14,225 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期3Q	57,176,784 株	2020年12月期3Q	57,047,734 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックが収束はおろかさなる猛威を振るい、世界経済、旅行業界は引き続き壊滅的な影響を受け、当社業績も厳しい結果が続きました。

当社が事業を展開している日本及びタイにおいては、アジアだけではなく欧米を含むほぼ全世界からの旅行者やビジネス客の入国禁止措置が継続しており、訪問客の数はほぼゼロのまま推移し、経済活動の本格的な回復は未だ兆しが見えておりません。

そのような状況下において、当社は売上高が前年同期比で39.3%減少するという結果に終わりました。このような売上の減少度合いは、販売費及び一般管理費を削減するだけでは損失を回避することができず、最終的に多額の営業損失を計上する結果になりました。

また、営業外収益として主に助成金収入、営業外費用として主に為替差損及び支払利息を計上し、特別利益として主に沖縄のリース解約益、特別損失として主に減損損失を計上いたしました。なお、当該リース解約益は、過去において減損損失処理対象となったリース資産に係るリース契約を中途解約したことにより生じております。また、すでに発表のとおり、2021年8月には名古屋と札幌のホテルを閉業し、物件の所有者とリース契約の解約に向けて交渉をしております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高371百万円（前年同期比39.3%減）、営業損失1,085百万円（前年同期は営業損失1,012百万円）、経常損失1,383百万円（前年同期は経常損失1,546百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失537百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,461百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は13,406百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,135百万円減少いたしました。

流動資産は1,076百万円となり、前連結会計年度に比べて227百万円増加しております。これは主に、現金及び預金が304百万円増加したためであります。

固定資産は12,329百万円となり、前連結会計年度に比べて1,363百万円減少しております。これは主に、有形固定資産が443百万円及び投資その他の資産が919百万円減少したためであります。

負債合計は13,393百万円となり、前連結会計年度末に比べ743百万円減少しております。これは主に、流動負債が2,427百万円増加したものの固定負債が3,170百万円減少したためであります。

純資産合計につきましては、12百万円となり、前連結会計年度末に比べ392百万円減少しております。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を537百万円計上したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年12月期の連結業績予想については、現在精査中であるため、記載しておりません。当該連結業績予想については、算定ができました時点で速やかに開示する予定であります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	216,037	520,260
売掛金	71,699	45,228
その他	567,308	517,430
貸倒引当金	△6,240	△6,168
流動資産合計	848,804	1,076,750
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,550,846	1,439,967
信託建物及び信託構築物（純額）	1,453,172	1,406,488
リース資産（純額）	5,987,269	5,745,906
建設仮勘定	1,579,065	1,566,664
その他（純額）	1,378,249	1,346,310
有形固定資産合計	11,948,602	11,505,337
無形固定資産	2,398	1,233
投資その他の資産		
投資その他の資産	2,459,173	1,540,044
貸倒引当金	△717,073	△717,073
投資その他の資産合計	1,742,100	822,971
固定資産合計	13,693,101	12,329,542
資産合計	14,541,905	13,406,293

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	117,256	2,173,694
その他	1,357,201	1,727,927
流動負債合計	1,474,458	3,901,622
固定負債		
長期借入金	3,269,236	1,564,791
リース債務	8,936,490	7,486,065
その他	457,002	441,421
固定負債合計	12,662,728	9,492,277
負債合計	14,137,186	13,393,900
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,096,887	0
資本剰余金	2,316,828	△3,087,667
利益剰余金	△4,850,736	3,113,438
自己株式	△139,027	△139,140
株主資本合計	423,952	△113,369
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△26,685	118,309
その他の包括利益累計額	△26,685	118,309
新株予約権	7,452	7,452
純資産合計	404,718	12,393
負債純資産合計	14,541,905	13,406,293

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	612,640	371,690
売上原価	133,859	128,762
売上総利益	478,781	242,928
販売費及び一般管理費	1,491,220	1,328,820
営業損失(△)	△1,012,439	△1,085,892
営業外収益		
受取利息	12,705	6,451
助成金収入	36,239	14,860
その他	2,289	10,809
営業外収益合計	51,234	32,120
営業外費用		
支払利息	158,799	158,127
為替差損	417,808	166,544
その他	8,551	5,161
営業外費用合計	585,160	329,833
経常損失(△)	△1,546,365	△1,383,604
特別利益		
固定資産売却益	85	7
リース解約益	—	1,190,316
新株予約権戻入益	86,245	—
受取和解金	—	38,000
特別利益合計	86,330	1,228,324
特別損失		
減損損失	—	377,588
和解金	—	2,800
特別損失合計	—	380,388
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,460,034	△535,668
法人税等	1,541	1,539
四半期純損失(△)	△1,461,575	△537,207
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,461,575	△537,207

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,461,575	△537,207
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	227,978	144,995
その他の包括利益合計	227,978	144,995
四半期包括利益	△1,233,597	△392,212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,233,597	△392,212

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、過年度より継続して営業損失、経常損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。また当第3四半期連結累計期間においても、営業損失及び経常損失を計上しております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。当社グループは、当該状況を解消すべく下記のような対応策を講じ、当該状況の解消または改善に努めております。

## ① 収益力の向上

新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミック以前は、日本への訪問客の増加が続いていたことから、日本国内のホテル需要は増加の一途をたどっておりました。一方で、全国の主要都市に多くのホテルが新規オープンし、新たに市場に供給された客室数の増加に伴い、競争が激しくなっておりました。パンデミックにより、当社グループの強みであったインバウンド旅行者に対するブランドの強みと位置付けを生かすことができず、もっぱら日本人宿泊客の需要をいかに獲得していくかが喫緊の課題になっております。国内の感染拡大が収束しないなか、安心安全を前面に謳いながら、宿泊プランの多様化やサービスの拡充を推進し、新型コロナウイルス感染症の収束後におけるホテルの客室単価と客室稼働率の向上に努めて収益を確保してまいります。

タイで運営中の5棟のホテルについても、日本と同様の施策を展開して客室単価と客室稼働率の向上に努めて収益を確保してまいります。

また、各ホテルの採算について常時モニタリングを行うなど経営管理体制の強化に努め、収益力の向上を図ってまいります。

## ② 事業基盤の拡大

本年8月に開業したレッドプラネット広島に続き、合弁事業を通じて取得した京都市中京区の土地でホテル建築を進めて竣工させること、フィリピンで建設中のホテル2棟を確実に竣工させ開業することなどを通して、更なる事業強化を図ってまいります。

## ③ 資本政策の促進

当社は、2019年7月25日付で、ホテル事業の拡大及び推進を目的として、第三者割当増資の方法により新株式及び第8回新株予約権の発行を行い、当新株予約権の一部が行使されましたが、残りの分については2020年4月1日付で消滅いたしました。今後は、ホテル事業の更なる強化と業績の改善を図りながら、新たな資金調達の手段を検討してまいります。また、合弁事業からの投資回収等を通じて、事業資金の確保と将来の事業基盤の拡大に向けた資金調達を行ってまいります。

## ④ コスト削減

当社グループでは、2021年1月31日付で、これまで運営していた「レッドプラネット沖縄那覇」のリース契約を解除いたしました。今後も不採算ホテルについては撤退も視野に入れ、徹底的なコスト削減を図ります。すでに発表のとおり、名古屋と札幌のホテルについては2021年8月に閉業し、リース契約の解約に向けて物件の所有者と交渉しております。

また、その他の販売費及び一般管理費を見直し徹底的なコスト削減を実施し、成長と利益のバランスをとりながら経営努力をしてまいります。

上記の施策を着実に実行することにより、当社グループの経営基盤の強化を図ってまいります。当該施策のうち収益力の向上及び資本政策の促進については、新型コロナウイルス感染症の影響などの外部要因に大きく影響を受ける側面もあることから、現時点においては継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は、継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (セグメント情報等)

## (セグメント情報)

当社グループは、ホテル事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。